伊万里市男女協働参画懇話会　いまりプラザ

皆のための男女協働参画を考えてみましょう

今、自分にできること
～『男女協働への一歩』～

子どもたちの『ごっこ遊び』での会話の一コマです。母親役の女の子が、「お父さん急がないと会社に遅れますよ」、「あー忙しい。買い物に行ってきますから赤ちゃんのミルクお願いね」などと大人顔負けの口調で『ごっこ遊び』を楽しんでいます。子どもたちの遊びの中にも、男性は仕事へ行くもの、女性は家事をするものという意識があるような会話です。しかし、よく聞いてみると、「お父さんがご飯を作らしたよ。掃除もさすよ」と、父親が家事を担っている一面も（正直に）話してくれました。

私は、ここ数年、父親の育児に対する関心が大きく変わってきていると実感しています。保育園や学校の行事に積極的に参加する父親たちが増えてきています。入園（学）式、運動会、お遊戯会、卒園（業）式などでは、両親での参加が多く、微笑ましい光景が見られます。『育メン』という言葉が飛び交い、父親の育児参加・参画が当たり前の時代となってきているようです。育児休業制度も少しずつ充実され、子育てにも幅が広がっていることを感じます。

大阪のある地域では、『爺メン』という名前で活動している地域のおじいさんたちがいて、彼らは行政と協力して子育て支援をしています。これこそ、性別・世代を超えた社会づくりだと思います。

このように、一人ひとりが自分にできることを行っていくことが、男女協働参画への第一歩となるのではないでしょうか。今、自分にできる一歩を踏み出してみましょう。

歴史民俗資料館で第14回市民所蔵品展

初公開の市民秘蔵のやきものを堪能

第14回市民所蔵品展が、11月3日から歴史民俗資料館でありました（12月1日まで）。これは、市民が所蔵している美術的、学術的に価値のある作品を展示・公開し、市民文化に対する意識の向上をめざして開催したものです。

今回のテーマは『やきもの』で、市民17人から秘蔵のやきもの42件50点の提供がありました。江戸時代初期に作成された壺や鍋島家の家紋が入った酒瓶など、ほとんどが初公開のもので、来場者は、普段は見ることのできない貴重な市民のお宝に熱心に見入っていました。

↑初公開の市民の秘蔵品を一つ一つ熱心に見る来場者

郷土の文化財

会いに行ける焼き物⑨

色絵唐花文皿
～発展途上の鍋島～

◆問合先　生涯学習課（☎㉓3186）

初期鍋島は、1650～1670年代のものと考えられます。まだ、藩からの要求がさほど厳しくなかったことから、文様の描画がやや粗いものが見られることも特徴です。

色絵唐花文皿は、1650～1660年代に作られた色絵の鍋島焼で、口径14・7㌢、底径8・2㌢、高さ2・3㌢の平皿です。初期鍋島の作品で、皿の表に不規則に配した唐花を白抜きと濃いめの黄・緑の塗りで描き、残りの空間は薄瑠璃釉で満たされています。

この色絵唐花文皿は、唐花の塗りが描線をはみ出したり、薄瑠璃釉と唐花の間に空白が残されていたりと、完成度に対する藩の規制が緩かった時期の作品です。鍋島は、製作開始年代が明確ではないため、こうした初期の作品は歴史的な観点からも重要なものです。

色絵唐花文皿は、伊万里・鍋島ギャラリーで開催中の『徳川将軍が愛したうつわたち　鍋島焼展』で、平成26年1月13日まで公開されています。

開館時間や入館料などについては、伊万里・鍋島ギャラリー（☎㉒2267）まで問い合わせてください。